

同窓会だより

青陵

喜多



「同窓会だより」会員送付にあたり



会長 加川 英 郎

会員の皆様お元気でご活躍のことと存じます。今年3月11日に「東日本大震災」が発生、10ヶ月を経過しようとしていますが、復興までには大変な時間がかかることと思います。同窓会も8月総会で承認いただき義援金10万円を拠出いたしました。一日も早い復旧を祈念いたしております。

さて、この度同窓会活動の一環として「同窓会だより」を全会員に送付するようにいたしました。今回で43号となりますが、これまでの配布は総会・同期会・各支部会合などの配布でした。

これからは同窓会本部・東京・近畿・九州各支部の現況、同窓生の活躍報告・青陵高校の現況・在校生の活躍状況などを盛り込んでお届けします。

また平成25年は青陵高校創立105周年に当たります。同窓会でも10年ぶりに同窓会名簿の発行を計画しています。(平成25年4月刊行)

現在同窓会は同窓会活動の活性化に向けて

① 役員の同窓会活動への積極的な参加

評議員を中心に同期会・クラス会を開催し、同期生の横の連絡体制を構築する。

② 会員への情報提供

同窓会だよりの全会員送付・青陵高校ホームページの同窓会コーナーの情報充実をはかる。

③ 東京・近畿・九州各支部との連携の強化

総会開催日のお知らせ・各支部で活躍する同窓生の紹介などの情報提供。

以上3点を中心に同窓会の活性化と新しい時代に即応した同窓会の在り方を模索、先輩諸兄姉が築かれた伝統の重みを受けとめ、若い人たちが楽しく参加できる同窓会を目指して取り組んでおります。

担当期の役員の皆様の協力で、ここ数年倉敷での総会も250名を超す参加で盛り上がる成果を上げています。

これからも母校の校長はじめ担当教職員・PTAとも連携を図り、母校発展と在校生への強力な応援団として、また同窓生の皆様に親しまれる同窓会に向けて役員一同頑張っております。

同窓生30,000名への「同窓会だより」送付については多額な経費が掛かります。同封にて協力金のお願いをいたしておりますので同窓生皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

ごあいさつ



校長 中山 弘 輝

同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は母校に対する熱い思いとともに、同窓会の諸活動に対しましてもご理解とご協力をいただき心から御礼申し上げます。

青陵高校は創立100年を超える歴史と伝統を誇り、今年3月には新たに275名の卒業生を送り出しました。そして、同窓会は37,000名を超える会員を有し、成長発展を続けています。

本校同窓会には、東京地区、近畿地区、九州地区それぞれに支部としての「青陵会」があり、毎年盛大に総会が行われています。その会に参加させていただき、同窓の方々のご活躍を見聞き、多くの方々から青春の思い出とともに母校に対する期待や温かい激励のお言葉をいただいています。そこには、多感な青年期の時代に、同じ校舎で学び活動し語り合った仲間としての共感があり、それぞれの時代に共に唱った校歌があります。卒業後の活躍の場、目指す方向はそれぞれに異なっても、集まれば同窓として同じ思い出で、懐かしく青春時代を語り合える場でもあります。

その様な同窓会そして母校の様子などを同窓の皆様にお伝えするため、このたび同窓会だよりを全会員にお届けすることとなりました。この同窓会だより「青陵」をとおし同期の方々や世代を越えた交流の輪が広がることを願っています。

さて、現在の青陵高校の様子について少し紹介いたします。本校には、現在広い地域から、青陵で学びたいと素質に富んだ多くの生徒が集まっています。それに応えるため、次の3点をビジョンに掲げ取り組んでいます。

① 目指す学校像 「師弟一体の高質な学びと鍛錬の青陵塾」

志高い進路希望の実現を図り、我国や国際社会に有為な人材を輩出する学校

② 目指す生徒像 「新時代を拓く心豊かでたくましい青陵生」

「自主と責任」「文武不岐」で育まれた、たくましくしなやかな生徒

③ 目指す教師像 「絶えず自己研鑽に努める青陵教師」

高い専門性と指導力で生徒と真剣に向き合う教員集団

そして、ビジョン実現のため、図書館の新設や本館の大規模改造工事など施設設備の充実と学校行事や指導方法の工夫・改善など教育活動の充実に取り組んでいます。進路指導では、将来の社会参加も視野に入れ、目的を持って勉学や諸活動に取り組むことができるよう、キャリア教育の視点に立った教育活動も重視し行っています。その成果は、近年の進学実績や部活動の活躍ぶりに現れているように思います。22年度の大学入試・部活動の結果については、別記記載にありますように、県下有数の実績をあげ青陵高校の存在を示すものとなっています。

今後も「自主と責任」「文武不岐」のもと、岡山県を代表する普通科進学校として教育活動の充実を図り、国内や国際的な舞台で活躍のできる人材の育成に努めていきたいと考えています。同窓生の皆様には、今後とも母校へのご声援とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りしごあいさついたします。

表紙のことば

書：澤田眞示（号・虚遊）（青陵21期）



『「青陵」の二文字に母校発展への思いを込め、威勢のいい字を心がけました。『青』の字のバランスに苦心し、何度も何度も繰り返し書きました。高校時代は山岳部や卓球部に所属し、北アルプスをはじめ近隣の山々に登ったことをよく覚えています。あの頃には、いい思い出が詰まっています」

社団法人日本書芸院評議員、岡山県美術展審査会員、岡山県書道連盟会長代行、財団法人関西書芸院理事長、財団法人関西書道専門学校校長。岡山県都窪郡早島町在住。59歳。

盛大に倉敷で総会

青陵20期 原 実

恒例の「青陵同窓会総会」が、8月7日(日)にアイビーフローラルコートで開催されました。恩師の河田義正先生、鴨川恵美子先生、永井裕先生、仁科喜代蔵先生、須賀真幸先生、井上寛治先生を含めて総勢270名の出席をいただきました。まず冒頭で、加川英郎会長より東日本大震災のお見舞いと募金箱を用意させていただいている事の紹介がありました。

さて、今年度の同窓会は加川会長や事務局を中心に0と9の期が当番幹事として、3月から評議委員会を重ね準備してきました。20期生は還暦を過ぎ現役を退く中で、これまでの仕事中心からボランティア活動など多方面での社会貢献へとスタンスを移していく時期にあり、同窓会のお世話をさせていただく事もその一つという思いで司会等の役を引き受けさせていただきました。また、59・60期の若い人が恩師の受付を担当してくれました。

今回、初めての試みとして当番期の集合写真を撮りました。後日、事務局の方からいただいた写真を見、気分はいつまでも若いつもりでいたものの、思わず「還暦にふさわしい！姿」かな？と納得。事務局の方々に感謝申し上げます。

総会の後、懇親会では来賓の挨拶と歓談を中心に進行了ました。恩師の先生方のお話を聞かせていただきながら、当時の様々な出来事を懐かしく思い出し、あの頃に戻った様な気持ちになりました。

各テーブルで時の経つのも忘れて楽しい会話が弾む中、いつの間にか会も終わりに近づき、恒例の校歌斉唱となりました。まず、倉女のメンバーによる合唱となり、往時をしのぶ美しい歌声に皆様思わず聞き入った様子でした。終わりに青陵高校の校歌をそれぞれ「心の思い出」に浸りながら元気よく心を込めて歌い閉会となりました。

母校とともに歩む同窓会も100年を超え、世代間の格差が見られるなかで、若い人達の参加が増えたことは喜ばしく、さらに定着して加川会長を中心として同窓会が益々活性化していくことを願っています。

ご多用にも関わらず出席いただいた恩師の先生・来賓の方々には、関係者一同より心から感謝申し上げます。また、ご指導・ご協力いただきました皆様ありがとうございました。

傘寿の同窓会開催へ

青陵2期 鴨川 恵美子

今年は同窓会会報を、全卒業生に全員配布とか、画期的な事業のこととて、それをまず、利用させていただくことにしました。青陵2期女子の全体の同窓会は、いままで総会担当の5年ごとに開催、来年が当番期に当たります。寄る年波には勝てなくて、いよいよ80歳、傘寿の同窓会です。幹事の私が1昨年脳梗塞を発症し、もうお世話が出来ないと危ぶみましたが、最近快方の兆しが見えてきて、80歳の同窓会をやらねばと意欲がでてきました。これが全体としては最後の同窓会です。まず数人の友人に呼びかけて、酷暑の夏の総会とは別に、以前から気候のよい時期にしてほしいという要望をとり入れて、とりあえず、来年、2012年10月11日(木)、会場を、アイビーに予約しました。詳細は、来年8月ごろ、ご案内を差し上げる予定ですが、当日を頭にインプットしておいてくださいませ。よいアイデアもお寄せくださいませ。体調を整えて、元気でお会い致しましょう。

次に話題は変わりますが、青陵の校庭の樹木は一体何本あるでしょうか。私が母校へ勤務した平成元年(1988年)、創立80周年を迎えました。その時記念誌の編集を命じられ、私は「樹木を編集の柱のひとつに据えよう」と思いました。生物部の顧問の田坂先生に依頼し、生物部の部員たちは、蚊に悩まされたり、腕や顔に漆の湿疹をだしたりして、カウンターで数えた樹木の本数はなんと、2,160本でした。記念誌の扉ページに校内樹木分布図を載せました。創立百周年を迎えた校庭の樹木はもっと増えていることでしょう。これが具体的な青陵高校の伝統の姿の一つだと私は思っています。



同窓会総会案内 平成24年8月5日(日)

場 所：倉敷アイビースクエア フローラルコート

時 間：午前10時より

担当期：1、2のつく期

東京青陵会

H23年度東京青陵会開催 (平成23年6月18日(土) 明治記念館「富士の間」)



青陵24期 神島 万喜也

平成23年3月11日14時46分18秒、日本観測史上最大のマグニチュードを記録した「東日本大震災」が発生しました。この大震災は東北地方太平洋沿岸地域をはじめ関東地域の広範囲に渡り多大なる被害を及ぼし、日本の状況を一変しました。改めて、大地震で被災を受けられた方々に謹んでお見舞い申し上げたいと存じます。あわせて復興に向け多大なるご尽力をされている方々に深い感謝の意を表します。

2月に幹事会を開催し、23年度の東京青陵会の日時・場所も決まり、まさに準備を始めた矢先でした。大震災発生1ヶ月後、東京青陵会会長の呼びかけで、臨時の理事・幹事会を開き、被災地での復興にご尽力されているであろう会員の皆様の状況、また福島原発事故による電力事情を鑑み、今年の東京青陵会を行うべきかの議論を行いました。この理事・幹事会では、「中止・延期すべき」と「開催すべき」の意見が真っ二つ。

激論の結果、今年もいつも通り実施し東京青陵会の結束を改

めて強めようということになりました。そして東北および関東の一部で被災した会員の皆様に、東京青陵会の案内がつつがなく届きますよう、返信がありますよう、特別の思いと緊張をもって案内状を発送しました。そしてキーワードは「集いましょう。」

今年は、①例年日曜日午後の開催を土曜日の夜に、②開催場所を「椿山荘」から「明治記念館」に、そして最大の試みは③学生対象の特別会費（今年大学入学：1,000円、学生：3,000円）の設定を行い若い会員の参加の呼びかけ等々、例年とは一味違った新しい試みを入れた東京青陵会としました。あわせてソーシャルメディア（mixi、Facebook、twitter等）を活用した若い会員の呼びかけも積極的に行いました。

そして当日、初めての会場である明治記念館に続々と会員の皆様がおいでになり、ご来賓を含め121名の方々が集まりました。そして、現役の学生さんも7名参加しました。

冒頭東北地方に向け黙祷の後、会長挨拶、ご来賓挨拶等々と会員の親睦を深める会が行われました。そして入り口には「義援金箱」、総会終了後には「東京青陵会」の名義で日本赤十字社に。

今年は日本にとってもそして東京青陵会にとっても忘れられない年となりました。これからも東京青陵会の会員の親睦が益々深まることを願っています。

東京青陵会 会長(青陵25期) 関 藤 佳 範

東京青陵会の3代目の会長をさせていただいております、25期生(昭和49年卒)の関藤と申します。実家は倉敷市上富井で、南中出身です。

東京青陵会は「東京」と冠しておりますが、首都圏に限らず、三重県以東の卒業生に御連絡させていただいており、名古屋等から時々御見えになる方もいらっしゃるの、東日本青陵会と言うべきかもしれません。

また、海外で活躍されているメンバーが帰国時に出席してくださったりとグローバルな観もあります。

打ち合わせや準備作業等は、23期の寺山一巳さんが経営されている、渋谷の居酒屋「メルローズ アベニュー」を使わせていただいて、楽しく行っております。

期毎に2、3名幹事になっていただいておりますが、31期以降は1名も参加されない期もございますので、我と思わん方は是非名乗りを挙げていただきたいと思っております。

一度幹事等を引き受けると、一生やらなければいけないのではと御思いの方もいらっしゃるでしょうが、「1年だけやってみよう」あるいは「一度だけ覗いてみよう」でも結構ですから、一度幹事会等に出席していただいただけませんか。軽いノリで来てみてください。よろしく御願いたします。

東京青陵会開催案内 平成24年6月16日(土)

場所：総武線信濃町駅前の明治記念館 時間：18時より

●●●●●部活動振興会の活動について●●●●●

部活動振興会(会長・大石純正=4期)は剣道部OBを中心に平成9年9月発足しました。会員会費と寄付金により運営されています。活動目的は部活動で優秀な成績を上げた生徒を称え、卒業式前日に全生徒の会合で表彰をしています。

棋道部が将棋女子団体戦で平成16年7月31日全国優勝をしました。その栄誉を称え、庭に記念碑をつくりました。これからも部活動に参加する生徒の励みになるようサポートしてまいります。

また平成24年は剣道部創部60年を迎えますので記念行事を企画しておりますので、一層のご支援よろしくお願いたします。

● 連絡先 野山義兼(青陵7期) 倉敷市羽島128-3



近畿青陵会

H23年度 近畿青陵会総会開催 平成23年5月22日(日)「太閤園」

青陵24期 小宮 幸久

平成23年度の近畿青陵会を、5月22日(日)に昨年と同じ大阪市都島区の「太閤園」で開催いたしました。ご多用にも関わらず恩師の石井勉先生(体育:在職 昭和35年~昭和49年)鴨川恵美子先生(国語:在職 昭和55年~平成8年)、青陵高校からは、中山弘輝校長先生、同窓会会長の加川英郎様、副会長の山部拓朗様など来賓を含めて、総勢80名の方に出席をいただきました。残念ながら、お越しいただく予定の渡辺展章先生(化学:在職 昭和39年~昭和49年)は、当日風邪をひかれて欠席されました。

当日は、まず全員で記念写真を撮りました。立派な庭園を持つ太閤園ですので、お庭で写真を撮りたかったのですが、当日はものすごい雨で残念ながら室内での撮影となりました。(誰のせいとは言いませんが、会の終了時にはすばらしい天気になっていました。)続いて、近畿青陵会総会が大水会長(14期)を議長として開催され、その後懇親会へと進みました。

懇親会では、中山校長先生、青陵同窓会会長の加川様(4期)から挨拶をいただき、副会長山部様(7期)の乾杯で、食事や歓談が始まりました。歓談中に、恩師の石井勉先生、鴨川恵美子先生からお言葉を頂戴しました。石井先生も鴨川先生も一度脳梗塞で倒れているのですが、そんなことを微塵も感じない様子でお話をされていました。特に、鴨川先生は「私は、青陵高校の第2期生で今年79歳になり、今回は、脳梗塞のリハビリの一環と思い、大阪に来ました。34期生に合うのが楽しみで…」などと凛としてお話をされ、参加者の多くが「自分もまだまだ頑張らなくては」と思った次第で

す。その後各テーブルの皆様からいろいろとお話をいただき、盛り上がった会となりました。

12時から始まった近畿青陵会も挨拶、食事、歓談などであったという間に2時間半が経過し、閉会の時間を迎え全員による校歌斉唱となりました。今回は、DVDにてスクリーンに歌詞と青陵高校の映像を映しての斉唱となりました。その後、近畿青陵会幹事の赤沢陽治さん(18期)より挨拶をいただき閉会しました。

今回は、14期、24期、34期が幹事を担当しました。昨年7月から準備を始め、いろいろな方からの援助や協力を得て何とか開催に至りました。また、お越しいただきお言葉を頂戴した恩師の先生、来賓の方々には、この紙面を借りて幹事一同より心から感謝申し上げます。

平成24年度の近畿青陵会は、5月27日(日)に同じ「太閤園」で開催の予定です。毎回感じるのですが、この会に参加すると世代を越えて青陵の絆で結ばれる楽しさがあります。次回も沢山の方の参加をお待ちしております。



近畿青陵会からのご挨拶

近畿青陵会 会長(青陵14期) 大水 勇



私は、昭和38年に卒業しましたので14期の卒業生です。現在私は、大阪で弁護士をしています。前会長の諏訪修三氏(6期)や同期の友人に頼まれて平成18年5月28日の近畿青陵会の総会で会長に選出され、会長に就任し、現在に至っております。

近畿青陵会の活動を簡単に紹介します。

私が会長に就任した時に諏訪前会長を補佐していた副会長・常任幹事・会計幹事・会計監査幹事に留任していただいたので、総会の準備並びに各期幹事との連絡もスムーズで近畿青陵会の運営は、順調に推移しています。

近畿青陵会を構成する同窓は、近畿地方(兵庫県・大阪府・京都府・滋賀県・和歌山県)に在住する同窓生です。近畿青陵会で作成している名簿では約1,000名の同窓がいます。

近畿青陵会は、年1回の総会を開くことが主な活動です。毎年担当期を3期決めて(例えば今年ですと14期24期34期というように)役員は担当期と協力して総会の開催準備活動に参加しています。

当年度の総会が終了すると総会に出席している次年度の担

当期の同窓と相談して、当年度から次年度への引継会の日程を決め、引継会を開きます。開催次期は例年8月です。その後次年度の2月頃次年度担当期が集まり具体的に総会の案内の発送等の作業手順を決めて、総会開催の準備を進めます。役員は必要に応じて協力・助言をします。総会の内容は担当期に自由に決めてもらっています。従って担当期によっては、同窓に講演をしてもらったり、青陵高校の過去の行事のビデオを観賞したこともありました。担当期はそれぞれ特色のある企画を実行しています。

以上が近畿青陵会の活動ですが、約20年前には20~30名であった総会出席者は、現在では総会出席者が70~100名に増加し、同窓同士の楽しい賑やかな総会になっています。

近畿青陵会総会開催案内 平成24年5月27日(日)

場 所: 太閤園

九州青陵会

H23年度 九州青陵会 総会開催

(H23/10/14 (金) 18:30 ~ 於西鉄グランドホテル)

青陵20期 加藤 榮一

九州青陵会事務局の加藤です。皆様には平日頃より同窓会活動にご助力頂き感謝にたえません。

今年の九州青陵会総会は、例年通り西鉄グランドホテル14階のクレイオにて行いました。今回は、メンバーのドタキャンや、多忙等でいつも出席されていた方々の不参加で20名を切ってしまいましたが、逆に九大1年の××君の出席や夫婦で長崎からの参加など初参加も3名で、出席者は17名と何とか体裁を整うことが出来ました。しかし、名簿総数は200名と最盛期の300名から激減しています。このままでは減るばかりですので、何か手を打つ必要があります。

さて、会はほぼ定刻通り開催しました。少人数なので着席形式で行いました。最初に九州青陵会の溝手会長(8期)の挨拶から始まり、本部より加川同窓会会長のご挨拶と会の活

動報告を拝聴し、平野副会長(20期)の乾杯音頭でスタートしました。少人数なので和気あいあいとは進行し、途中、中山校長より青陵高校の現状などのお話を拝聴しつつ、和やかなかつ穏やかなムードが最後まで会場全体を包んでおりました。

その後、初参加者からの挨拶やらその他の全員から近況報告、今回は青陵での所属クラブのエピソードを中心にメンバーから色々なお話がありました。

予定通り、2時間強で会は終了し、来年の再開を期し散会しました。来年の開催には、今年より参加人数を増やすべく活動してまいります。どなたかお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ご一報頂ければと存じます。



【連絡先】

〒811-3223

福岡県福津市光陽台2-12-8

加藤 榮一

電話&FAX 0940 (43) 5388

携帯電話 090-1341-6566

メールアドレス eys_k2128@yahoo.co.jp

九州青陵会総会案内 平成24年10月12日(金)

場 所：西鉄グランドホテル

時 間：18：30より

大牟田記念病院

理事長 溝手 博 義 (8期)
(九州青陵会 会長)

四 角 満 春 (8期)

広告・宣伝・企画 (株)協同プライニング 福岡営業所

代表取締役 桐 野 紘 武 (13期)

大分県公安委員会

委員長 平 松 徹 夫 (18期)

ひびき調剤薬局

名 倉 万 寿 夫 (19期)

西日本鉄道(株) CSR推進本部 経営管理部

部 長 加 藤 榮 一 (20期)

アグチ興産

代表 田 中 進 (20期)

九州青陵会 副会長

平 野 善 次 郎 (20期)

村岡屋ギャラリー

ギャラリーコーディネーター

喜多村 真 美 (26期) 旧姓: 貝原

あの人、この人

青陵高校の卒業生の多くが全国各地で、多彩な方面で活躍していますが、今年と同窓会総会の当番期（9と0のつく期）の中から、地元・倉敷市を拠点にユニークな活動を繰り広げている2人を紹介します。

倉敷市民の憩いの場となっている酒津公園（倉敷市酒津）は、今年も幻想的な光の点滅で彩られた。

「幼虫として放流したホタルが成虫となり、光の舞を披露してくれる。その数は年々増えています」

そう話す武内さんは、地元住民らでつくる「酒津のホタルを親しむ会」の会長。自宅に酒津榎窯を開き作陶活動を行う傍ら、2008年の同会結成時からホタルの保護活動に中心的に取り組んできた。

ゲンジボタルの幼虫を飼育し、毎年、秋から冬にかけて配水池などに放流。09年から配水池周辺でホタルが見られるようになり、今年是一日に30匹も確認した日があった。

「かつてホタルが乱舞していた酒津の夜空に、なんとかホタルを復活させたい」

武内さんの熱い思いが結実し、今では酒津公園は、ちょっとしたホタルの名所に。

酒津のホタルを親しむ会が発足したのは、倉敷市真備地区の住民らでつくる「倉敷ホタル」愛好会から公園近隣の住民が幼虫を提供されたことがきっかけとなった。武内さんらは、愛好会の協力も得ながら成虫の捕獲、産卵、幼虫の飼育といった一連の作業を進め、配水池のそばにはビオトープ（動植物の共生空間）も造り、ホタルの生育環境の整備に努めてきた。

武内立爾さん

（青陵29期）

倉敷市酒津



酒津公園で、ホタル復活への思いを話す武内さん

「幼虫が土中に潜れる空間を近くに確保するなど条件さえ整えば、コンクリートの水路でもホタルは育ちます」。生育条件を調べる実験を進めた結果、従来、不向きといわれたコンクリート水路でもホタルが育つことを確認した。

子どもたちも含め、地域一体となってホタルの育成・保護活動に取り組む武内さん。ほのかな光を見つめながら、「大人でもロマンを感じるホタルの光を通して、子どもたちが自然に関心を持つきっかけになれば」と願っている。

田中まりさん

（青陵30期）

倉敷市西阿知町西原



薬膳料理の楽しさ、奥深さを指導する田中さん

「体によくて、元気になれる。その上おいしい。そんな料理を、ぜひ、一緒に楽しみませんか」

田中まりさんは、食と健康を追い求め続ける料理研究家。「壽桃（しょうたお）」と名づけた健康教室を主宰し、漢方を生かした中国料理・薬膳料理の指導に当たっている。

「薬膳料理といっても、難しく考える必要はありません。自然の四季を身近に感じ、地域の旬の食材を活用して自分の体質にあった料理を楽しむことがモットーです」

薬膳は中国の伝統的な養生食で、健康維持、病気予防に役立つとされる。「医食同源」という言葉があるように、中国で

は古くから食事を通して健康を維持したり治療に役立ててきた。田中さんは、大学で栄養学を学んだ後、岡山大学農学部の研究室で野菜や農薬について研究。留学先の北京で中医学と薬膳を学び、管理栄養士の資格を持つ。

自宅健康教室を開いているほか、倉敷・岡山市周辺のカルチャースクールや公民館などで講座を持ち、テレビや新聞などで活動が紹介されることも多い。

今年7月には倉敷市で、55歳以上で料理経験のほとんどない男性のために「男おひとりさま料理カンタン教室」を開講した。「料理の基本となる野菜の洗い方、野菜の切り方から詳しくお教えします」と話す講座は、和気あいあいとした雰囲気。初めての人も、あっという間に打ち解け、笑顔で料理に取り組んでいる姿が印象的だ。

高齢化社会が進む中、多くの人にとって健康は大きな関心事となっている。「自分のベストの体調で働きたい」「もっと元氣になりたい」。田中さんは、そんな思いの実現をサポートする。

「健康を守るためには、正しい知識も必要です。明日の自分の健康のため、料理のあり方を考えてみませんか」と日々、受講生とともに楽しみながら、料理の大切さ、奥深さを伝えている。

倉敷の陶芸担う卒業生

倉敷市・酒津公園でのホテル保護活動で取り上げた陶芸家・武内立爾さんをはじめ、地元・倉敷の陶芸文化を支える卒業生は少なくありません。意欲的な創作活動を続ける母校出身の陶芸家たちを訪ねました。



「天神窯」の(右から)川上節子さん、岡本篤さん、岡本和敏さん

羽島にある「天神窯」は、岡本篤さん(67)=13期=と、篤さんの妹の川上節子さん(62)=18期=、篤さんの長男の岡本和敏さん(36)=44期=の3人の卒業生が担う。

篤さんの父の故岡本欣三さんが窯を開いて60年。中国の古陶磁を範に釉薬の美しさを追求し、昨年夏に岡山市で開いた記念展には、3人が紫やピンクなど多彩な色彩の作品を並べた。

篤さんは「父を追い、ようやく自分の特徴が出せるようになった」、川上さんは「新しいことに挑戦したい」と言い、和敏さんは「祖父、父と引き継いだ伝統を守っていきたい」。



「羽島焼」の小河原常美さん

同じ羽島の「羽島焼」では、小河原常美さん(65)=15期=が作品作りを手がける。

父の故小河原虎吉さんが酒津焼の伝統を背景に戦後独立。自身の作陶生活が約40年になる常美さんは、

コーヒーカップや湯のみなどの食器を中心に「自分の好みに合った、使いやすいものを」と心がける。



「真吉備窯」の青木優三さん

羽島焼で焼き物を学んだ青木優三さん(56)=25期=は、真備町箭田に「真吉備窯」を開い

青陵高校の進路指導

進路指導課では、第一に、きめ細やかで丁寧な学習指導と継続的で多様な学習活動を通じて、基礎学力の充実と個性の伸張を図ること。第二に、自ら学び、自ら考えて行動できる「自主と責任」の精神と、生涯を通じて学び続ける態度を養成し、将来の職業と上級学校の進路選択に展望を与えるとともに、生徒一人ひとりの進路実現に努めること。第三に、高質な学力の養成を図り、広い視野に立ち、国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育成することを進路基本方針として取り組んでいます。

具体的な取り組みとして、新入生一人ひとりが新しい学校生活に少しでも早く慣れ、スムーズに青陵生として充実した高校生活が送れるように学習面・生活面でサポートする「ビギニングセミナー」。企業・研究所・大学等を訪問し、その活動の様子を見学したり体験したりしながら、将来就きたい職業や学びたい学部学科について研究する「フューチャーウォッチング」。また、各学年ごとに毎週開講している「土曜*FW講座」では、基本から発展レベルまで学べる講座を準備しています。この「土曜FW講座」には同窓生による講演会を昨年度から実施しており、今年度は、岡山大学医学部の平松祐司教授(青陵21期)をお招きし、『夢抱き集え若人…医学部を目指す後輩へのメッセージ』というテーマで生徒たちにお話をさせていただく予定です。また、早朝から夕方まで自学自習を行う者のために学校を開放しています。昨年度末に大規模改造工事に伴い個室仕様の学習室を整備し、生徒たちは連日この新しい学習室を利用しています。このような地道な取り組みの結果が近年の進路実績につ

進路指導課長 生田 司



ながっているものと思います。

今春の結果は「平成22年度主要大学合格状況」のとおりです。国公立大学合格者数は187名。岡山大学合格者数は63名で、3年連続トップの成績を残すことができました。これも日々の授業や度々の個人面接等を通じて、生徒・保護者と教員の間に信頼関係ができあがっていたからこそ実現できたものです。最後まで粘り強く努力を続ける生徒たちの姿勢は周囲に感動とやる気を起こさせてくれます。生徒たちは仲間と共に学び、切磋琢磨しあえる友人の存在が心の支えとなって頑張れたと言います。この校風・伝統が上級生から下級生に伝えられていることが青陵高校の強みであると実感しています。

教育を取り巻く環境は日々変化しています。私立小中学校への流出、県立中高一貫校の存在など、生徒募集に関する厳しい状況が目の前にあります。青陵高校の歴史と伝統を礎に新しい時代の進路指導を模索しつつ、社会のリーダーとして活躍できる人材を輩出していく努力を続けていくことが、私共の使命であると思っています。同窓生の皆様には、今後とも後輩たちへの温かい御支援を賜りますようお願い申し上げます。

*FW講座とは、「Forward(一歩前進めざし)・Free(自由意志で)・Favorite(好きな講座に)出るWeekend(週末)」の意味で、青陵生の期待に応える講座をほぼ毎週実施している。

平成22年度 主要大学合格状況

国立大学	人数
北海道大	1
東北大	2
東京大	2
名古屋大	3
京都大	3
大阪大	8

神戸大	7
九州大	7
千葉大	2
横浜国立大	3
電気通信大	2
鳥取大	2
島根大	2
岡山大	63
広島大	9
山口大	4

徳島大	6
香川大	18
愛媛大	6
高知大	1
大阪市立大	1
大阪府立大	3
岡山県立大	5
神戸市外大	1
その他の大学	26
合計	187

国立医歯薬系	
医学部	5
歯学部	1
薬学部	3
主な私立大学	
国際基督教大	1
東京理科大	3
明治大	3
中央大	1
早稲田大	3

慶応義塾大	4
同志社大	28
立命館大	43
関西大	10
関西学院大	31
清心女子大	60
川崎医療福祉大	19

て今年で25年を迎えた。土も葉も薪もその土地の自然のものを
使い、食器を主体とした作品は人柄を投影したような飾り気
のない作風で、「今後はもう少し遊び心のあるものを手がけよう
とと思っている」。



肉厚で素朴な風合いが特徴。開窯140周年の2009年に青陵な
ど倉敷市内の高校に抹茶碗を贈った研作さんは「定番のものに
加え、自分らしい特徴のある作品を」と抱負を述べ、和明さん
は「普遍的な美しさを備えた、個性的な作品を作りたい」と夢
を語る。

酒津の地で長い歴史
を有す「酒津焼」は、岡
本研作さん(54) =26期=
と岡本和明さん(44)
=36期=の兄弟が、生活
に根ざし簡素な美しさを
持つ民芸陶の伝統を守る。

武内立爾さん(52) =29期=は酒津の自宅
に「酒津榎窯」を開いて25年。「自分の作り
たいものを追求する」と辰砂(しんしゃ)と
呉須(ごす)の釉薬にこだわり、鮮やかな赤
と深みのある青が持ち味。「さえた赤は自分
の色」と言い、来年以降、25周年記念の個
展を倉敷、福山市などで開く計画だ。



「酒津兜山窯」の岡本達弥さん(36) =44期=は、高梁川西岸
の八幡山(通称・兜山)の麓に築かれた兜山窯の次代を担う。

阿知の陶房には、民芸の
流れを汲む食器など実用
的で温かみのある作品が並
び、「使いやすいや丈夫さ
は受け継ぎつつ、新しい感
覚のものができれば」と、
将来を見据えている。



生徒の活動状況

生徒指導課長 高橋清志

◎創立100年を超える歴史と伝統で培われた「青陵魂・青陵祭」

◇第49回青陵祭が過日9月7日(水)～9日(金)の日程で開催
されました。

文化祭の部(青陵祭初日、2日目)では、体育館ステージ・展示・
野外ライブ・模擬店などで大いに盛り上がりました。時代の流れと
ともに学校祭(青陵祭)の内容も「現代風」に変わり、先輩方がこ
よなく愛された「陵歌」はいつの時代からか歌われなくなりました
が、生徒たちは、演劇・ダンス・合唱・演奏・映画上映・展示(ク
ラス・部)など、限られた準備期間の中で素晴らしいものを作り上
げます。

体育祭の部(青陵
祭3日目)では、1
年(7クラス)、2年(8
クラス)、3年(7ク
ラス)を縦割りに7
つのブロックを編成
し、競技の部・ブロ
ック演技の部・アー
チの部、行進・応援の部、
総合の部で競い合いました。ブロック演技指導、アーチ(看板)作成、
各種目の練習、行進練習など、計画・立案・準備・練習のすべてに
おいて3年生がリーダーシップを発揮しています。上級生の指導の
もと全員が一致団結して取り組む姿は今も昔も変わらない「良き伝
統・青陵魂」の一つです。青陵祭は生徒たちにとって最大のイベン
トであり、友との絆を深める絶好の機会となっています。



◎青陵高校のモットー

◇「自主と責任」

子どもから大人への過渡期にあたる高校生期をいかに過ごすか。
青陵高校での3年間をいかに充実したものにするかは、生徒たちに
とって大きな課題です。

青陵生は「自主と責任」という言葉を大切にしています。生徒会、
各種委員会(文化・体育・風紀・整美・交通・保健厚生・図書・パ
ソコン)、学年、クラス、部等、それぞれの立場で青陵祭をはじめ
とする学校行事への取り組み、体育的・文化的行事、ボランティア
活動などを自主的・組織的に取り組んでいます。

◇「文武不岐」

青陵高校のモットーに「文武不岐」という言葉があります。青陵
は県内屈指の普通科進学校にあって、全国大会・中国大会に県代表
として多くの部が出場するなど部活動においても頑張っています。

部活動加入率はここ数年間、全校生徒の80%を超え、生徒たちは
「文武不岐」の実現に向けて高い意識と目標を抱いて日々精進して
います。平成23年度の主な部活動成績はご覧の通りです。

【全国大会】

- ・陸上競技部(男子100m、200m、4×100m) インターハイ出場
- ・棋道部(男子) 全国将棋選手権大会出場
- ・水泳部(男子100m、200m背泳ぎ) インターハイ出場
- ・美術部 総合文化祭(美術工芸部門) 出品
- ・ハンドボール部(男子国体選抜メンバー)

【中国大会】

- ・バスケットボール部(男子)
- ・剣道部(女子個人)
- ・陸上競技部(男女)
- ・水泳部(男女)
- ・棋道部

◎青陵の目指すもの

◇高校生活を謳歌

「生徒一人ひとりが青陵での高校生活を謳歌する。高校生活を通
して、たくましく、しなやかでバランスのとれた成長を遂げる。」こ
とを重点目標にあげて教員も鋭意努力しています。

私の青陵時代

青陵1期 茶園幸子(旧姓 三宅)



我々の世代にとっての学校時代は、戦争なくしては語れないように思いますので、その頃の思い出話を少しばかり書かせていただきました。

昭和19年4月モンペと下駄履きで倉女に入学し、さぞ女学校らしい歌が習えるか期待していたら、先生のアコーディオンで「来たれや、来たれや、いざ来たれ」で始まり1、2年生のときは軍歌ばかりでした。でも今軍歌を聞き、現在の日本の体たらくを見ると、死んでいった兵士達はどんなに辛かったろうと涙が出そうになります。

2年生の時、軍に供出するためだったらしいのですが、運動場の3分の1程にケシを植え、その樹液を茶碗にためて褐色のガム状モルヒネを作りました。同学年生の半分は、クラレのプロペラ工場へ勤労働員、半分は農家へ麦踏みから稲刈りまでの作業のため、毎日学校に行かずに農家へ行きました。ある家に7名、

他の家には6名などと人員割をし、全員の出席を確認、伝令係として学校へ報告、そんな1年で終戦を迎えました。13、4歳の少女がよくそんなことが出来たものだと、今思えば不思議な気がします。その後は、勤労奉仕もなくなり授業も一応もとに戻りました。当時は現在のような受験勉強も強要されず、東京から藤原義江、川崎静子、田村宏など錚錚たる演奏者がやってきて倉女の講堂で聴かせてくれたことが、その後の私達を育ててくれた様に思います。

人はよく暗い青春時代だと云います。確かに明るい時代ではなかったけれど、物を大切にすること、ぐちは言わないなどいろいろなことを学んだように思います。苦しいことも多かったけれど、やはりいい青陵時代だったと思っています。

青陵会の繁栄とご多幸をお祈りいたします。

<p>大山公認会計士事務所</p> <p>公認会計士 税理士 大山卓良(7期)</p> <p>〒105-0021 東京都港区東新橋1-3-1第2小田ビル 電話 03-3574-6944 FAX 03-3573-1841 E-mail: oyama-cpa@trust.ocn.ne.jp</p>	<p>金森株式会社</p> <p>代表取締役 金森秀子(10期)</p> <p>倉敷市連島町西之浦425-1 電話 086-444-8151</p>	<p>キミセ醤油 五穀蔵 GOKOKUGURA</p> <p>本社/岡山市南区妹尾217 TEL(086)282-0200 FAX(086)281-4158 http://www.kimise.co.jp/</p> <p>永原聰子(10期)</p>
<p>ヤングイン倉敷</p> <p>藤原昭一(功達)(10期)</p>	<p>不動産全般 (有)陶楽興産</p> <p>千田修平(10期)</p>	<p>呉服と和装小物 (太)たかしまや</p> <p>高島克忠(10期) 倉敷センター街 TEL 422-0422</p>
<p>帽子とユニフォームの 倉敷制帽株式会社</p> <p>代表取締役 岡 荘一郎(10期)</p> <p>倉敷市羽島65-7 TEL 425-3456(代)</p>	<p>割烹・寿司・天婦羅 寿司勝</p> <p>木村勝彦(10期)</p> <p>倉敷市美和11-8-1(倉敷中央病院南門前) TEL 422-0775</p>	<p>学校法人 専門学校 倉敷ファッションカレッジ</p> <p>理事長 山口 毅(10期)</p> <p>〒710-0055 倉敷市阿知1丁目14-13</p>
<p>有限会社 前田組</p> <p>代表取締役 白神 溶子(19期)</p> <p>倉敷市中畝2丁目2番2号 TEL 086-455-5496</p>	<p>内科・小児科 三浦医院</p> <p>三浦 洋(19期)</p> <p>倉敷市広江2-5-41 TEL 086-456-1188</p>	<p>斉藤医院</p> <p>斉藤 典章(19期)</p> <p>倉敷市西阿知新田552-1 TEL 086-466-3177</p>
<p>倉敷建築工房</p> <p>一級建築士事務所 大角雄三設計室(19期)</p> <p>岡山市北区門前16-1 TEL 086-287-5037</p>	<p>トリゴエ動物病院</p> <p>獣医師 院長 鳥越 秀二(19期)</p> <p>倉敷市八王寺町197-5 TEL 086-422-1123</p>	<p>小野眞一税理士事務所</p> <p>所長 小野 眞一(19期) 税理士 小野 晃弘(50期)</p> <p>〒710-0016 倉敷市中庄2974番地の2 ☎(086)463-1222</p>
<p>Usagiya 楽しさわくわく、文具でわくわく</p> <p>倉敷店・岡本店・岡南店・岡山東店 http://8989usagiya.co.jp</p> 	<p>医療法人 たかや内科小児科</p> <p>院長 高谷 泰正(20期)</p> <p>〒710-0803 倉敷市中島2769-1 TEL(086)466-0550 FAX(086)466-0533</p>	<p>医療法人 和楽会</p> <p>・野上内科医院 ・介護老人保健施設 倉敷あいあいえん</p> <p>野上 和加博(20期) TEL(086)473-3356</p>
<p>中国建設工業(株)</p> <p>佐々木 勝博(20期)</p>	<p>新日本清掃有限公司</p> <p>代表取締役 岡井 美幸(20期)</p>	<p>森齒科医院</p> <p>森 光正(20期)</p>

ひとりごと

青陵21期卒業 長沼 眞智子

今年8月はじめに、3年6組で同じクラスだった角南(旧姓小田)幸子さんが急逝しました。理科系クラスには女子が7人いて、彼女は、薬学部に進みました。

私を含め同級生は誰もこのことを知らず、わかったのは、8月下旬のことでした。とりあえず、連絡できる方に声をかけさせていただき、お葬式には間に合いませんでしたが、なんとか四十九日には8名でお花をお供えすることができました。幸子さんの霊も慰められたのではないかとと思っています。

彼女はここ2年ほどの間に私が経営する「エルグレコ」に、4度ほど訪ねてきて、お互いに近況を報告しあった

りました。福祉のボランティアを希望していたので、紹介して、研修も2度ほど受けられたようでした。

喫茶「エルグレコ」は大原美術館の隣にあり、私の母が始めましたが、私が後を継ぎ、経営しています。昭和34年に創業して、平成元年から私が経営を引き継ぎました。彼女は、子育ても一段落して、気持ち的にも余裕ができたのでしょう、美術館で絵を見たりした後に寄ってくれたようです。これからの人生にいろいろと計画もありだったのではないかと、幸子さんの気持ちを考えると悔やまれてなりません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

倉敷アラカルト

一大商業地へ変貌

青陵高校の地元・倉敷市は今、一大商業地へと大きく変貌し、岡山県内外から熱い視線を浴びています。

JR倉敷駅の北、チボリ公園跡地(倉敷市寿町)に11月末から12月にかけて、大型ショッピングセンター「アリオ倉敷」11月25日と、岡山県初のアウトレットモール「三井アウトレットパーク倉敷」12月1日が相次いでオープン。同跡地から約1.5キロしか離れていないショッピングセンター「イオンモール倉敷」(倉敷市水江)は10月末、1999年の開業以来初の大規模増床を行い、“集客戦争”が激しさを増しています。

アリオ倉敷はイトーヨーカ堂が建設し、スーパーに約120の専門店を併設。三井アウトレットパーク倉敷は三井不動産が手掛け、衣料や雑貨、スポーツ用品などのブランドショップ120店が出店しています。一方、イオンモール倉敷は店舗面積を1万平方メートル以上拡大し、全館リニューアルオープンしました。

倉敷はJRや高速道路が行き交う交通の要衝でもあり、駅の南に位置する美観地区と合わせ、大型ショッピングゾーンの誕生でにぎわいが増えています。



昨年まで本部、支部の総会へ御出席いただいた方への配布となっておりました「同窓会だより」を卒業生全員のお手元にお届けいたしました。担当期評議員の皆様、御協力をいただき、第43号の会報を無事発行することが出来ました。9と0の担当期を中心に寄稿をいただきました皆様方には、厚く御礼申し上げます。会報の体裁、記事内容も一新し、より充実した誌面にしたと思っています。各地の話題・会員の動静・同期会の開催などお知らせ下さい。

編集後記

ご意見・情報・お問い合わせは… 岡山県立倉敷青陵高等学校 同窓会事務局
〒710-0043 岡山県倉敷市羽島1046-2 TEL:(086)422-8001 FAX:(086)422-8004
e-mail: seiry05@pref.okayama.jp URL: http://www.seiry0.okayama-c.ed.jp

発行所 岡山県立倉敷青陵高等学校同窓会 岡山県倉敷市羽島1046-2

印刷・デザイン (株)サラト

— 福祉施設・病院等の調理業務受託 —

(株)山陽フードサービス

代表取締役 高田 仁 (29期)

本社: 岡山県倉敷市美和2-5-20
TEL (086) 430-3477 FAX (086) 430-3422
事務所: 岡山・兵庫・大阪

Jms **TOYOTA**が作った
カー用品とカーメンテナンスの
新しい店 **ジェームス**
倉敷中島店 086-430-1111
西岡山店 086-430-1111

SANDOZ

サンド株式会社

中道 淳一 (29期)

めざせ、生涯現役！ 伸ばせ、健康寿命！ 下山薬局有限会社

東洋医学指導
薬剤師 減炎師 下山 眞寛 (29期)

〒710-0046 岡山県倉敷市中央1-7-8
TEL (086) 422-0641 FAX (086) 421-1647

酒津榎窯

武内 立爾 (29期)

〒710-0801 倉敷市酒津1678
電話 (086) 422-0145 090-8607-1199

丸尾重仁税理士事務所

税理士 丸尾 重仁 (30期)

倉敷市幸町5-23 TEL 086-422-3791

イベント・パーティー企画・司会 GEMÜT ゲ・ミュート

代表 上家 禎子 (30期)

〒710-0822 倉敷市稲荷町1-23
TEL&FAX 086-441-4968 gamut@tempo.ocn.ne.jp



主宰 田中 まり (30期)

倉敷市西阿知町西原996-13
TEL.FAX 086-465-2558 携帯電話 090-1181-0506

片山城治税理士事務所

片山城 治 (30期)

〒703-8205 岡山市中区中井122-10
☎086-275-9220

福田好子税理士事務所

税理士 福田 好子 (30期)

〒702-8021 岡山市南区福田600-7
TEL 086-261-2331 FAX 086-261-2332
Email: fukudayo@po.harenet.ne.jp

こんにちは！今日も元気に活動中？の青陵高校新聞部です。生徒を代表して現在の青陵高校ライブをお伝えしたいと思います。♪それではレッツ・ゴー♪

楽しかった青陵祭！今年のテーマは青嵐

吹奏楽部のステージ演奏、ライブ、模擬店、カラフルに飾られた校舎！…9月7・8日に行われた青陵祭文化の部。普段は勉強、勉強、勉強…ばかりの青陵高校がもっとも強い輝きを放つ文化祭です。今年も保護者の方、OB、OGの皆さんをお迎えして楽しい文化祭となりました。

さて、まず写真に写っているのは吹奏楽部の皆さんです。体育館ステージ発表の部で見事最優秀賞を取った吹奏楽部。その演奏は普段の練習の成果を十二分に発揮したもので素晴らしいものでした。今年は先生方、野球部とコラボレーションをして先生方がマリオブrazersの格好に扮して踊ったり、野球部がAKB48に女装して踊ったりしました。それに合わせて観客もうちわを振ったり手拍子をしたりとみんなで盛り上がりました。

さてさて、書道部の書いた巨大作品「青嵐」の飾られた憩いの広場。ここでもコーラス部の合唱、有志によるライブ、ダンス、今年はシンセサイザーの演奏などが行われ、大変な賑わいぶりでした。新聞部も青陵笑辞典第15版を販売し、1日目は9分で完売との新記録を打ち立てました。

3年生のかき氷、フランクフルト、うどん…などの模擬店も教室やテントで出店され、大行列ができて大盛況でした。記念館では茶道部がお手前を披露し、訪れた人々を和やかな気持ちにさせました。

2日間にわたって賑わった文化祭。高校生活の楽しい思い出の1ページとなりました。



青陵祭もいよいよ3日目、最終日。青く晴れた空の下、待ちに待った体育祭が行われました。長縄や二十人二十一脚、部活動対抗リレーなどが行われ、中でも盛り上がったのが騎馬戦です。毎年恒例のボディペインティングにより全身緑色や紫色で戦う姿を見て、思わず応援も白熱したものとなりました。最後は全校生徒による校歌の大合唱!! 3日間笑って、踊って、走って…生徒それぞれが思い出を胸に燃え尽きました。今年の青陵祭のテーマであった「青嵐」。若い力とあふれる笑顔いっぱいの体育祭は、まさに「青陵の嵐」を私たちに起こしてくれたと思います。

「四都」、北海道で 楽しく貴重な体験 修学旅行

6月21日から24日の4日間、2年生最大のイベントとも言える修学旅行がありました。北海道コースと東京コースに分かれて旅する予定でしたが、3月11日の地震と福島第一原発の事故により東京コースは急遽、名古屋、大阪、神戸、希望者のみ京都をまわる「四都コース」へと変更されました。

最初は東京に行くものだと思っていたけれど、四都コースに変更されちゃった…。でも！行き先は違えど修学旅行！楽しくないわけがありません。大変密度の濃い4日間を過ごしました。名古屋ではバスで市内の観光地を巡りました。写真は名古屋城のもので、その他にもテレビ塔トヨタ博物館に行きました。大阪では修学旅行の目玉、ユニバーサルスタジオに行きました。ジュラシックパークがメンテナンス中だったことは少し残念でしたが、友達とまわるU.S.Jはとても楽しかったです。神戸では船上でランチを食べました。船から神戸の街並みを眺めながらのランチは格別なものでした。



北海道はでっかいぞ～!! この言葉は本当だと思うほど広く、自然豊かな北海道へ行ってきました。倉敷を出るときは湿度が高く蒸し暑く感じましたが、北海道は少し肌寒いほどでした。クラーク像と写真を撮ったり、富良野でアウトドア体験をしたり、小樽、札幌での班別自主活動を行ったり、特に旭山動物園では動物の自然な表情を間近で見ることができ、北海道ならではの貴重な体験をすることができました。